

会議録

1 開催概要

名 称 平成 30 年度 第 1 回 新潟市立豊栄図書館協議会
日 時 平成 30 年 7 月 9 日 (月) 午後 2 時～4 時
会 場 新潟市立豊栄図書館 集会室
出席者
委員 白神会長、本間副会長、小野委員、菊地委員、金桶委員、伊藤委員
(欠席 野口委員、藤沢委員、坂井委員)
事務局 池田館長、青野主任、小松原主査、中山主査
傍聴者 なし

2 次第

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 委員自己紹介
- (4) 事務局職員自己紹介
- (5) 委嘱状交付 (小野委員)
- (6) 議事
報告事項
ア 平成 29 年度事業報告等
イ 平成 30 年度事業計画等
ウ 図書館評価について
エ その他
- (7) 閉会

平成 30 年度 第 1 回 新潟市立豊栄図書館協議会

日時 平成 30 年 7 月 9 日 (月) 午後 2 時から
会場 新潟市立豊栄図書館 集会室

開 会

(司 会)

これより、平成 30 年度第 1 回豊栄図書館協議会を開催する。

館長あいさつ

(館 長)

本年度、豊栄図書館館長に着任。

豊栄図書館は、松浜図書館と濁川地区図書室の管理運営を行っている。

豊栄図書館は建築家安藤忠雄氏が設計した単独の建物。松浜図書館は公民館に併設。濁川図書室は連絡所に併設している。豊栄図書館の窓口業務は、外部業務委託。松浜図書館、濁川地区図書室は、直営で行っている。

豊栄図書館内には学校図書館支援センターが設置され、北区・江南区の 36 の小中学校の学校図書館運営のサポートを行っている。公共図書館と学校図書館が連携する新潟市の取り組みは、全国的にも先進的。各種メディアに取り上げられ、全国規模の研修会で事例発表を行っている。

図書館の予算については、年々厳しくなっている。

少子高齢化、人口減少とともに読書離れも進行し、貸出冊数や貸出人数は年々減少傾向。図書館では、限りある予算の中選択と集中を図り、ボランティアの力も借りて、市民から親しみを持って利用してもらえる図書館を目指している。今回の協議会で意見を聞き、今後の図書館運営に役立てていきたい。

委員自己紹介

(小野委員)

前年度までは特別支援教育サポートセンターで勤務。本年度より早通中学校長。

(菊地委員)

前年度に引き続き濁川小学校長。

(本間副会長)

地域ボランティアガイド「北宝（ほっぼう）隊」代表。図書館よりも北区郷土博物館とつながりが深い。地域文化を再発見する活動から、図書館ともつながりができるとよい。

(白神会長)

協議会会長で委員 2 期目。代表をしているボランティア団体「豊栄図書館応援団」は、豊栄図書館の開館と同時に発足。図書館と二人三脚で歩んできている。

(金桶委員)

葛塚小学校の地域教育コーディネーター。

(伊藤委員)

代表をしている「子育て応援隊ほっとタイム」は、市主催の講座を修了したメンバーで作った親子遊びのグループ。主に東区で活動していた。委員は2期目。北区の児童センターでの勤務経験がある。

事務局自己紹介

(事務局・小松原主査)

本年度、豊栄図書館に異動。本日、進行を担当。

(事務局・青野主任)

本年度より、豊栄図書館学校図書館センターの主任。

(事務局・中山主査)

本年度で豊栄図書館3年目。

委嘱状交付

(池田館長から小野委員に委嘱状交付)

議事 報告事項

平成29年度北区図書館事業報告(資料2)

(事務局)

児童対象事業について、おはなしのじかんを実施した。

豊栄図書館では、幼児と保護者とわらべうたで遊ぶわらべうたのじかんと、0～2歳児と保護者向け及び3歳以上・幼児向けのおはなしのじかんを開催。

松浜図書館では、0～2歳児と保護者及び幼児・児童向けのおはなしのじかんを開催。開催回数と参加者数が減少。

ボランティアが協力するおはなしのじかんについて、豊栄図書館は、団体が1つ減少したため、開催回数・参加人数・ボランティア人数が減少。

松浜図書館は、開催回数・参加人数は前年並み、ボランティア人数が減少。

その他の事業について、1歳誕生歯科健診にあわせブックスタートを実施。北区は豊栄健康センターと北地域保健福祉センターの2会場。計438名の1歳児に絵本を手渡し、のべ71名のボランティアが協力した。

全館対象事業として、こどもの読書週間に、来館者がおすすめの本を紹介する「この本だいすき!」を実施。2館合わせて153名が参加。また、うちどく読書ノートを配布し、2館合わせて計202冊を配布。

豊栄図書館では、春・夏・冬のおはなし会をボランティアと共催で開催。「春のおはなしリレー」では、2館の活動ボランティアが参加。

夏には、小学3年生以上を対象に「一日子ども図書館員」、1・2年を対象に「かがく実験

室」で科学工作体験を行った。北区出身力士の豊山関にちなみ、紙ずもうを作って遊んでもらった。

松浜図書館は小学4年生以上を対象に「一日子ども図書館員」を行った。

講師派遣・体験学習・視察等について、豊栄図書館では、保育園へ読み聞かせとわらべうたの職員派遣、特別支援学校への読み聞かせを行った。中学校は6校の職場体験と1校の施設見学、小学校は5校の施設見学を受け入れた。

松浜図書館では、北地区公民館の児童対象事業に職員派遣した。

ボランティア紹介について、豊栄図書館では、北区・江南区の小中学校計8校から依頼を受け、おはなし会を実施するボランティアを紹介した。

一般対象事業について、豊栄図書館では、年4回読書会を行った。

その他の事業について、一般向けの読書ノートを、2館合計150冊配布した。

豊栄図書館では、ストーリーテリング（昔話などの語り）講座の受講者が、勉強会を継続する「おはなしの勉強会」を行った。「おはなしの勉強会」参加者で、子ども向けのおはなし会を年2回、大人のためのおはなし会を年2回開催した。小中学校へのボランティア紹介でも協力を得ている。

夏には、ボランティア団体豊栄図書館応援団主催で、「わくわく体験夏まつり」を行った。新潟医療福祉大学の学生にも協力してもらい、体験型のさまざまなプログラムを行い、のべ1,118人が参加した。

読書週間には、ボランティア団体おはなしマドレーヌ主催で、「石塚さんの昔話を楽しむ会」を行った。江南区の昔語りをする石塚さんを招き、大人向けに昔語りを行った。また、児童書『河童のユウタの冒険』に関連し、著者の斎藤惇夫氏を招いて「河童のユウタはたしかに福島潟に生きている」をテーマに、ビュー福島潟で講演会を行った。ボランティア講座としては、「ブックスタートボランティア・ステップアップ講座」を、江南・秋葉区合同で開催した。

冬以降は、保存期限の切れた雑誌のリサイクルを行い、900冊近い配布を行った。また、豊栄図書館応援団主催で、第1回「わくわく読書会」を行った。

松浜図書館では、秋の北地区公民館文化祭に合わせ、「小さな朗読会」を開催した。また、冬に保存期限の切れた雑誌のリサイクルを行った。

テーマ図書展示について、時勢・季節のテーマに沿って図書の展示を行い、利用者に興味を持ってもらえるよう工夫した。特に、北区出身力士の豊山関の応援展示は、場所ごとに積極的に行った。

図書館ボランティア活動について、読み聞かせ活動、ブックスタートの他に、豊栄図書館では書架整理、松浜図書館では本の補修を行うボランティアが活動した。

(伊藤委員)

濁川中学校が施設見学に来たことになっているが、濁川小学校の間違いではないか。

(事務局)

小学校の間違い。訂正する。

平成 29 年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業報告 (資料 3)

(事務局)

はじめに、前年度の学校図書館支援センター全体の取り組みを説明する。

学校図書館支援センターは、学校図書館の活用を推進するため、市立図書館 4 館、中央・豊栄・白根・西川図書館に設置している。学校司書を経験している職員が担当。学校図書館の経験、市立図書館の実務的なスキルをもとに、学校図書館を支援している。

学校図書館支援センターは、6 つの取り組みを柱として活動している。学校図書館訪問、学校からの各種相談対応、学校司書を対象とした研修の開催・協力、市立図書館の団体貸出サービスの対応、学校図書館に対する情報提供、市外への情報発信である。

前年度の重点は 2 つ。学校図書館活用推進校事業への協力、特別支援学校の学校司書新規配置を受けての学校図書館整備への協力である。

北区・江南区には特別支援学校が無い場合、学校図書館活用推進校事業への協力を元に豊栄図書館の重点を設定した。取り組みとして、「学習センター」「情報センター」「読書センター」機能の向上に繋がる支援の充実と、学校図書館活用推進につながる情報の発信の 2 つである。これをもとに、様々な取り組みを行った。

次に、前年度の学校図書館支援センター全体の事業報告から、豊栄図書館に関わる部分を説明する。

豊栄図書館学校図書館支援センターは、北区・江南区の小中学校計 37 校を担当した。

学校図書館訪問では、年 3 回機会を設けており、4～7 月に全校を訪問していた。9～11 月・1～3 月は、新任学校司書勤務校や要請のあった学校への訪問を行った。要請の内容としては、除籍候補資料の選定などがあった。

前年度は、委員会活動見学で早通中学校を訪問した。委員会中心で、放課後に読書会を実施した。自分の思いを上手に表現する姿があり、先生と生徒が一読者としてひとつの作品を共有できるよい場であった。

学校からの相談は、業務相談とレファレンス相談があり、計 414 件だった。業務相談の内容は、主に蔵書管理に関するもので、レファレンス相談は、事例として新潟市の昔話や伝説の紹介（小学校）や読書会で読む様々なテーマの本の紹介（中学校）などがあった。

学校貸出セット【オレンジ BOX】、ブックリスト掲載図書セットの提供も行った。学校への団体貸出は、学校の要請に応じて宅配を行っており、学校図書館の蔵書の不足分を市立図書館でカバーしている。豊栄図書館は北区・江南区を担当した。

研修については、図書館以外の各種機関とも連携して行った。

新任学校司書研修は、4 支援センター合同で全 6 回実施した。講師には支援センター職員だけでなく、学校司書や図書館主任の先生、また学校司書の任用を担当する学校人事課の協力を得て進めた。

専門的な事柄のほかに、地区別相談の時間を設け、新任者の悩みや迷いを直接聞き取り、解決策を提案することができた。新任者同士のヨコのつながりも築けた。

学校司書実務研修では、各支援センターが個別に実施。豊栄図書館は、2回中1回を中央図書館と合同で、「学校図書館とNIE~新聞を活用しよう~」をテーマに行った。NIEとは、新聞の学校教材活用のこと。

「教員と司書との連携充実」講座は、総合教育センター主管で、全区を対象に行った。「図書館活用推進編」と「探究的な学習編」の計2回。

連携については、学校ボランティア支援で、読み聞かせの研修を2校計3回行った。

学校図書館関係課・機関連絡会議では、教育委員会内の学校図書館に関わる10の所属が集まり、施設、設備、予算、雇用、授業での活用等の、現状と課題の情報共有と連携の要となる会議。

発行・発信については、4支援センター合同で通信を発行。前年度は計3回発行した。

また、新潟市の図書館のホームページ上に支援センター用のページを設けており、記事の更新を行った。特に「これいいね！学校図書館の工夫」では、各学校図書館の様々な取り組みの工夫を掲載しており、市外からも評価の声を得ている。

その他、図書館サービス向上委員会による「りぶしる~図書館をつなげる情報サイト~」への取材協力、「変わる！学校図書館シリーズ」（ミネルヴァ書房）への写真提供などを行った。新潟市立図書館で作成している、うちどくブックリストや関連データの、学校図書館への提供も行った。

（白神会長）

早通中学校に見学とある。前年度から早通中学校の朝学習の時間に、1・2年生の教室にストーリーテリングに行っている。中学生たちは、本に対してどんな気持ちで受け止めているのか知りたい。また、読書会がどのようなものなのかくわしく知りたい。

（事務局）

読書会に参加した。『ナミヤ雑貨店の奇跡』がテーマで、市立図書館の団体貸出で複本を提供した。参加者は委員会と有志の生徒。国語科でも読書活動を重視していた。

（白神会長）

委員会の中でやっているのか。

（事務局）

委員会主催でポスター作成して募集をかけていた。

（白神会長）

どのくらい参加したか。

（事務局）

資料が手元になく即答は難しい。後日回答としたい（※）。読書会は本年度も行っており、『ワンダー』という本を提供した。

（白神会長）

どのくらいの頻度で行っているのか。

(事務局)

資料が手元になく即答は難しい。後日回答としたい(※)。

※豊栄図書館職員が参観したのは平成29年11月30日午後4時から5時30分。生徒10人、教職員3人、図書館職員1人。平成29年度は、読書会を年6回、放課後に実施。平成30年度も実施している。参加者は生徒(3~10人位)と教職員。

平成29年度北区図書館利用統計(資料4)

(館長)

平成29年度、28年度、27年度の北区図書館の利用状況及び蔵書冊数を比較している。

平成28年度との比較を中心に見ていくと、蔵書冊数は約2,800冊減少している。これは、南浜地区図書室の廃止が主な要因。登録者数は13,354人と前年度比262人の増加。貸出冊数は328,251冊と前年度比26,848冊の減、貸出人数は92,922人と5,582人の減となっている。しかし、リクエストを含む予約件数は50,928件と、前年度比410件の増。貸出冊数の約15.5%を占めている。

前々年度比では、貸出冊数は42,777冊の減だが、リクエストを含む予約件数は4,179件の増加。おそらく、図書館に来て読みたい本を探すより、自宅でパソコンやスマートフォンで検索し、短時間で確実に読みたい本を手に入れたい利用者が増えていると思われる。

これは北区の図書館だけでなく、市内の他の図書館でも同様な傾向であり、このあたりにこれからの図書館運営にかかわるヒントがないかと考えている。

「図書館へのたより」や図書館への意見(資料5)

(館長)

豊栄図書館で5件、松浜図書館で「市長への手紙」も含め2件、計7件。

まず「市長への手紙」について説明したい。「松浜図書館に隣接する公民館に授乳室を設置して欲しい」との意見。利用の都度依頼するのは気が引けるとのこと。

松浜図書館、北地区公民館、北地区健康福祉センターに、授乳希望者は遠慮なく職員に声をかける趣旨の掲示を行い、公民館と健康福祉センターの空き室を授乳室として提供するよう、3施設の職員で申し合わせを行い、回答をした。

次に、図書館駐車場の除雪への意見について説明したい。除雪の委託業者は市道の除雪も行っており、道路の除雪を優先している。このため、前年度の異常な降雪下では、駐車場の除雪まで行うのは難しい場合があった。

平成30年度北区図書館事業計画(資料6)

(事務局)

乳児・児童・生徒読書活動の支援事業として、おはなしのじかんを行う。

また、その他の事業も、ボランティア団体からの協力も得ながら開催していく。

一般向け事業として、前年度より「わくわく読書会」を開始した。本年度は、朗読会を計

画している。中学生以上を対象とし、ボランティア団体との連携も考えている。

その他の事業では、ブックスタートボランティア養成講座を実施した。また、読み聞かせボランティア入門講座は、北区内の図書館で活動する読み聞かせボランティアを養成することをねらい実施。他に、歴史講座や農業出前講座を計画している。

テーマ図書の展示は、豊山関関連を中心に進めていく。また、ティーンズアート部と題して、イラストを募集し館内に展示している。

その他、ボランティア交流会を開催予定。北区の図書館で活動するボランティアの交流の場として、さまざまな意見を聞いて参考としたい。わくわく体験夏まつりは、7月に開催。

この他にも、ボランティアと共催・協力開催するおはなし会の日程が固まっている。豊栄図書館では、おはなしバスケット、クリーク・クラック、豊栄図書館応援団、おはなしの泉の4団体に協力を得る。松浜図書館では、こんぺいとうから協力を得る。

おはなし会の他に、豊栄図書館では図書の返却ボランティア、松浜図書館では本の補修ボランティアが活動を行っている。

平成30年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業計画（資料7）

（事務局）

リーフレット「学校図書館を応援します！」は、本年度の学校図書館支援センターの取り組みや、学校図書館について広報する際に活用している広報物。写真を多用し、学校図書館を活用する様子や、学校図書館支援センターの取り組みが、ビジュアルでわかるような紙面構成となっている。新潟市の学校図書館が、全国的にも整備状況が大変進んでいるということや、教育委員会内の学校図書館に関わる10の所属が連携している様子が、一目でわかるようなアピールを行っている。

本年度の学校図書館支援センターの取り組みとしては、全市共通で取り組む6つの柱は変わっていない。重点についても同様だが、より分かりやすい表現とした。

その中で、本年度の豊栄図書館学校図書館支援センターの取り組みの重点は2点。平成27～29年度学校図書館活用推進校の現状確認と取り組み継続の推進、学校図書館訪問や業務相談を元にした学校図書館の活用推進に繋がる支援である。

これを受けて、本年度の豊栄図書館学校図書館支援センターの事業計画を作成した。北区太田小学校の閉校により、支援対象となるのは、北区・江南区の小中学校計36校。

通年で行うのは、各種相談や要請訪問の対応、支援センター通信合同版の発行、ホームページの更新、学校図書館の活用の実際について理解を深めるための授業参観、学校図書館とかわる各種団体との連携である。

4支援センター合同で行う取り組みでは、4～7月にかけて新任学校司書研修を5回行い、12月に第6回を行う予定。また、ほぼ毎月担当者会議を行っている。

豊栄図書館学校図書館支援センターの取り組みでは、5～7月に全校対象で学校図書館訪

間を行っている。9～12月・1～3月も新任学校司書勤務校と要請校に訪問を行う予定。第1回の豊栄図書館学校図書館支援センター運営協議会を7月に開催予定。また、7月に学校司書実務研修を行い、「子どもと本を結ぶ取組」をテーマに、おためし読書の演習とグループ協議や、中学校区ごとに集まり情報交換を行った。10月に第2回を行う予定。

平成30年度北区図書館の予算（資料8）

（館長）

北区図書館の予算概要について、当初予算は全体で56,104,000円。前年度比1,672,000円の減。

主な内訳は、資料購入費が1,752,000円の減。図書館管理運営費は、窓口業務委託の人件費増加で3,951,000円の増。

子どもの読書環境整備事業と学校図書館支援センターの消耗品費は、予算額がゼロ。読書普及事業費の中で工夫しながらやりくりしていく。

職員体制について、南浜地区図書室の廃止に伴い臨時職員が2名減。

正規職員4人、非常勤職員9人、再任用職員1人、臨時職員6人、計20人。うち、司書有資格者12人。

豊栄図書館9人の職員の内、学校図書館支援センター職員2人を含む。

新潟市立図書館広告事業（資料9）

（館長）

新潟市立図書館のうち、9館が対象。図書館内の壁や柱、雑誌のカバーに、民間事業者の広告を載せ、広告料を図書充実のために活用するもの。年間約900,000円の収入となる。

平成30年7月現在の広告掲載状況は、中央図書館4社、亀田図書館1社。

（白神会長）広告の希望がなくても、収入が入ってくるのか？

（館長）図書館で23か所の広告スペースを提供する代わりに、広告申込み状況に関わらず、一定の収入が入る契約を広告代理店と結んでいる。

（白神会長）広告を設置することで、図書館の広報の場所がなくなることはないのか？

（館長）それも考慮して場所を決めている。

図書館ビジョンの評価（資料10）

（事務局）

図書館の事務事業の自己評価に対して、協議会委員が評価を行うもの。

図書館ビジョンに基づいた区分で、新潟市立図書館全館で取り組んでいる共通の評価項目と豊栄図書館・松浜図書館が重点的に取り組んだ事業を評価シートに記載。今回配布した評価シートの統計数値は速報値。図書館の自己評価はまだ行っていない。

第2回協議会で、豊栄図書館が自己評価した評価シートについて、委員に評価を依頼する予定。評価結果は、取りまとめて図書館運営の参考にするとともに、新潟市立図書館ホーム

ページで公表する。

その他 全体を通しての質問

○濁川地区図書室について

(菊地委員)

濁川地区図書室を閉室すると聞いているが現在の検討状況は。

(館長)

コミュニティ協議会と相談をしている。お互いにとって良い方向を考えている。

○図書館ビジョンの評価について

(伊藤委員)

今説明されてもすぐには判断できない。記載されている数値は正しいのか。

(事務局)

目標数値を入れている。

○わくわく体験夏まつりについて

(白神会長)

7月に行われるので、様子を見に来てもらいたい。

(伊藤委員)

前年度は新潟医療福祉大学の学生に参加してもらったとのことだが、前々年度とボランティアの人数は変わらなかったのか。

(白神会長)

学生の人数が入っているかは承知していない。

(事務局)

今後、学生の人数の取り扱いを検討する(資料には学生を含めた人数を記載)。

○学校図書館支援センターについて

(伊藤委員)

学校図書館支援センターの説明で、新潟市は特別との話があったが、何が特別なのか。

(事務局)

学校司書が全校に専任・専門で配置されていることが珍しい。学校司書の勤務体制はいろいろだが、一律に研修制度がある。公共図書館に学校図書館支援センター担当職員を置いている。学校司書経験のある職員が支援している。また、教育委員会内での連携による基盤整備を行っている。校長・教員と学校司書が一緒になって子どもの読書環境を整え、読書活動を推進している。

(伊藤委員)

学校にいる司書は教員ではないのか。

(事務局)

教員ではない。公共図書館の司書と同様、行政職員。司書資格または司書教諭免許が必要。

(菊地委員)

新潟市では、教員が司書をしていない。

(伊藤委員)

学校司書が配置されるまでは、司書教諭はいなかったのか。

(事務局)

合併前の旧新潟市では、学校司書は PTA 雇用から始まり昭和 30 年代から市の直接雇用で順次配置されてきた。

(伊藤委員)

保護者は、司書は先生がやっていると思っているかもしれない。司書の雇用体制がいろいろという話があったが、どういうことか。

(事務局)

学校人事課が任用している。正規、非常勤嘱託、再任用、臨時職員がいる。

(伊藤委員)

知り合いが学校司書をしているが、勤務時間が足りないと言っている。均一にできないのか。

(事務局)

学校図書館支援センターは、学校人事課へ学校の現状を伝えることもできる。学校司書へは、業務の効率化や、他の学校での良い取り組みを紹介し、少しでも仕事にゆとりが持てるように提案している。

(伊藤委員)

児童・生徒数が多い学校でも少ない学校でも配置は 1 人か。

(事務局)

配置は 1 校 1 人。学校の規模により正規、非常勤嘱託、臨時職員などの違いはある。

○学校ボランティアへの情報提供について

(白神会長)

早通中学校の様子について、先ほども聞いたが、学校での読書会などの事業に、学校ボランティアが参加する可能性はないか。実際に子どもたちと触れ合う人たちが子どもたちのことを知らない。

子どもたちにストーリーテリング（昔話などの語り）をしても反応が分かりづらく、どう感じているのか知ることが難しい。日頃触れ合える機会にちょっとでも参加したい。

(事務局)

学校図書館支援センターは、あくまで学校に提案する立場。今後、提案してみたい。

(金桶委員)

委員会から発展して、次のステップとしてボランティアにも読書会に参加してもらえるようになるといい。

(白神会長)

前年度、豊栄南小学校でアニメーション(グループ参加型の読書指導手法)の活動があった。朝、読み聞かせに行っているが、見学について声をかけられた。子どもと本のことで関わることで、子どもとの交流がうまくいくと思う。

○平成30年度の事業について

(金桶委員)

本年度の事業で、歴史講座や農業出前講座、ティーンズアート部など、新しい試みをするようだが、歴史講座や農業出前講座は一般対象なのか。子どもたちも参加できるか。

(事務局)

歴史講座や農業出前講座は内容が子どもには難しい。ティーンズアート部は以前から行っているもので、定期的に投稿されている。

(金桶委員)

イラストに関連する本を、展示するなどして一緒に紹介しているのか。

(事務局)

必ずしも本に関連するものではなく、思い思いの絵を書いている。

(金桶委員)

発展があるといいと思う。10代の子が足を運んでくれることがあるといいと思う。

○利用者層の把握について

(伊藤委員)

どの世代がどれくらい借りているということはわかるのか。

(事務局)

外部に公表しているものはない。

(伊藤委員)

公表してほしいという事ではなく、数字は取れるのか。

(事務局)

内部用に数字を出すことはできるはずだが、家族の貸出カードを使用することもあるため、正確な数字ではない。

(伊藤委員)

利用者の年代はわからないか。例えば勉強で図書館を利用している中高生の人数など。

(事務局)

全体の入館者数はわかるが、年代はわからない。

(伊藤委員)

中高生は試験期間中に勉強には行くが、本を借りているか。

(事務局)

試験期間中は図書館に立ち寄っている。

(伊藤委員)

高校生が見る参考書はあるか。

(事務局)

資料収集方針に基づき、参考書は基本的に購入してない。

(金桶委員)

就職試験用に面接対応の時事問題の本があるといい。

(事務局)

時事問題の本はある。また小論文の書き方など、補助的な本はある。

(金桶委員)

時期になったら、それらの本を全面に出して展示してほしい。

閉 会

(司 会)

これで、平成 30 年度第 1 回豊栄図書館協議会を閉会する。